

## 2011 年度協働実践研究会 第 4 回研究会 報告

2012年10月20日、政策研究大学院大学にて、第4回研究会が開催されました。プログラムと当日の様子をご報告いたします。今回は3つの口頭発表と2つのポスターセッション、そして、協働学習が言語教育からどのように展開するのか、という一つの例として、池田玲子先生から報告がありました。

---

### 【口頭発表】

**発表者 1 : 松本裕典 (早稲田大学大学院日本語教育研究科修士課程)**

題目 : 「問題意識の変容を記述するー協働実践研究による言語教育実践者としての立場の形成へー」

【要旨】本研究は、実践者の言語教育観が実践の理念を規定し、実践の理念が実践の内容を左右するという立場に立ち、自らの実践を振り返ることで理念及び言語教育観の更新プロセスを明らかにし、自らの言語教育実践者としての立場の形成を目指すものである。

大学院の教育実習としてほかの実習生と協働で作りに上げていく実践への参画を通して、発表者の問題意識がどのように更新されていったのかを話し合いの議事録やメール記録、活動案などを実践終了後の視点から実践開始前、実践実施中、実践終了後のそれぞれについて自己エスノグラフィーの手法で分析し、明らかにする。

分析の結果、実践への葛藤や迷い、成長の実感といったものが見えてきた。また、そこには言語教育観を意識するための「意味のある他者」との「対話」が有効に働いていたことも示唆できそうである。ここでの立場の形成が、今後の実践をよりよくしていくための一つの拠り所になるだろう。

### ◆リンク

「にほんご わせだの森」公式サイト <http://www.gsja1.jp/ikegami/mori.html>

**発表者 2 : 田中敦子 (早稲田大学日本語教育研究センター)**

題目 : 「BBS への書き込みをリソースとした初級前半クラスにおける教室活動の可能性

ー協働的に学び合う「日本語かきこ」実践報告ー」

【概要】SNS の普及により、大学生など若い世代の学習者にとって近況や自分の意見を気軽に発信することは日常的で身近な行為となっている。このようなツールを日本語学習に活用する実践も増えてきており、早稲田大学日本語教育研究センターの「総合日本語」コースでも 2011 年度より初級前半クラスにおいて学内 BBS を利用した活動「日本語かきこ」を実施している。活動内容は、学習者が授業時間外にあるトピックについて BBS に投稿し、それをリソースとして教室でフィードバック (FB) 活動を行うというものである。コース終了後のアンケート調査では、学習者が自身について表現することで教科書や教室だけでは学ぶことができない語彙や表現を獲得し、またクラスメートの書き込みを読むことで新しい日本語を学ぶだけでなく、内容を共有することで人間関係の構築を促すきっかけとなることがわかった。さらに、教室での FB 方法は学習者同士で添削を行ったり、書き込み内容を広げたプレゼンテーシ

ョンに展開させたり、学習者が協働的に学び合える活動となる可能性があると言える。

**発表者 3 : Gehrtz 三隅友子 (徳島大学国際センター)・竹内利夫 (徳島県立近代美術館)**

題目 : 「美術作品を通じた学習の可能性-日本語教育と美術鑑賞教育の協働-」

【概要】2008年より徳島県立近代美術館と徳島大学国際センターは、美術館と大学という二つの組織すなわち空間を舞台に連携及び協力し、双方がねらいとする「学び」の実践を試みている。美術館は社会教育の機関として地域の文化振興を使命とし、芸術作品の収集保存・調査研究・展示・教育の事業を行っている。一方国際センターは大学の組織として、日本語教育と学内外の異文化理解への働きかけ、さらには地域の国際化を進める役割を担っている。本発表はこれらの協働教育活動を日本語教育と美術鑑賞教育の二つの視点でとらえ直し、互いが目指す教育とは何か、また連携によって実現しうるのかを考察する。また両者がどのように連携を始め、様々な活動を通しての気づき、さらに互いの目標の実現のための意見のすり合わせといった過程にも言及したい。

#### ◆リンク

徳島県立美術館 HP <http://www.art.tokushima-ec.ed.jp/>

#### 【ポスターセッション】

**発表者 1 : トンプソン (平野) 美恵子 (お茶の水女子大学)**

題目 : 「日本語教師として『生きる力』を醸成する日本語教員養成プログラムの実践報告」

【要旨】本発表は、都内近郊の学部課程における日本語教育副専攻科目「日本語教育方法論」の実践報告として、受講生が自己・他者・世界に対する認識を醸成していく過程を示し、教師職と人間としてのあり方を一体化させたグローバル化世界を担う日本語教員養成の可能性と課題を検討する。当該科目は、日本語教師を目指す自分の足元からグローバル化世界における共生を模索し、他者との対話を通じて複眼的な視点を取り入れながら、グローバル化世界で生きる自分のあり方を追求することを目標とした。2011年度開講分を対象とし、受講生10名のふり返しシートの記録14回分を質的に分析した。分析の結果、批判的かつ能動的な世界認識が醸成されており、その認識の醸成は言葉の駆使、仲間、変革と知識への希求によって支えられていた。他方、他者との人間関係をどう形成し、自分がどうあるべきかというグローバル化世界を担うための生き方の追求は、萌芽に留まった。発表では、各回の授業の概要を参照しながら、受講生のふり返しを示す。また、分析を踏まえ、実践者である発表者が2011年度実践をふり返し、当該年度の課題を指摘し、2012年度実践（現在進行中）の改善点を提示する。

**発表者 2 : 影山陽子 (日本女子体育大学)**

題目 : 「継続を可能にする協働のカー日本女子体育大学 キャリアカフェの場合-」

【要旨】日本女子体育大学では、2008年4月より、キャリアカフェという社会人を招いてのミニ講演会を行っている。キャリアカフェは、長期休業時を除いて毎月行っているため、年9回開催で、4年目の現在、32回を実施している。講師は毎月異なっており、職業も働き方も様々な方をお呼びしている。このコーディネーターは、一人の教員が担当しているのであるが、2年目を経てから、大学内の教員、職員、そしてOG、それから、参加して下さった講師ご自身のご協力で、ヒューマンネットワークが広がり、様々な方を講師として呼べるようになり、現在にいたっている。

コーディネータ役の教員だけではできないことが、協働の輪の中で実現している。キャリアカフェの4年間の推移から自然発生的な協働について考察する。

### 【実践の提案】

発表者：池田玲子（東京海洋大学）・川辺みどり（東京海洋大学）

題目： 「大学と地域の協働による東京湾についての学びの場のデザイン

ー江戸前マイスター講座のデザイナーー」

【要旨】東京湾周辺の地域住民を対象として実施された「江戸前マイスター講座」は、地域住民が東京湾について、海洋の環境や生物、人々の食や生活などの文化歴史の知識情報を共有し、持続可能な東京湾について考える場を提供するための全6回の講座である。講師は研究者・漁業関係者・食品加工業者が担当し、スタッフとして東京海洋大学の学生が参加した。講師の説明の後、グループ・ディスカッションと質疑応答、そして、「東京湾を考える」というテーマで、ふり返りのワークショップが行われた。この実践の紹介を通して、「異分野間の協働による場のデザイン」について考える。

### ◆リンク

（文献情報）川辺みどり・河野博編『江戸前の環境学-を楽しむ・考える・学びあう12章』東京大学出版 <http://www.utp.or.jp/bd/978-4-13-066250-5.html>

【研究会からお知らせ】文献リストの入手およびキーワード検索方法について

【今年度の主な活動報告】国内外で行われたワークショップ、講演会

### ◆当日を振り返って

第4回研究会は、教室から外へと活動の場を広げて実践された活動の数々が報告されました。フィールドや分析手法がバラエティに富んでいて、聞きごたえがありました。今回は、開催情報をお知らせするのが遅くなってしまい、結果としてこじんまりとした会になりましたが、参加して下さった方々には、協働的活動をデザインする、そして、その実践を研究成果として発信していくヒントがいろいろと見つかる機会になったのではないかと思います。

アンケートでは、ポスター発表の時間や休憩時間等、時間配分の面での課題をご指摘いただきました。次回に生かしていきたいと思っております。

文責：岩田（協働実践研究会東京支部 事務局）